日刊 建設工業新聞

オンラインサービス
記事検索・紙面PDF
ご購読者は無料で会員登録できます。
https://www.decn.co.jp/onlineservice

優動空間
comfortable space
豊かな経験・最高の技術
ロープ式・油圧式エレベーター設計・製作・据付・保守
横浜エレベータ株式会社
横浜市中区松影町2－8－6　☎045（662）1594（代表）
http://www.yokohama-elevator.jp/

白水社とエイプラス・デザインが提携

HOSPITALITY DESIGN OFFICE 始動

スコープ
企業経営

空間総合プロデュース業を手掛ける白水社（東京都中央区、山口真一社長）と、建築設計のエイプラス・デザイン（水戸市、佐藤昌樹代表取締役）が資本・業務提携の一環として7月、白水社の社内に新部門「HOSPITALITY DESIGN OFFICE」を設立した。建築設計からインテリアデザイン、アートディレクションやプロモーションまで、ホスピタリティ機能が求められる空間を「建物丸ごとデザインする」専門チームだ。設立の狙いや今後の計画を山口、佐藤両氏に聞いた。

両社が資本・業務提携したのは2016年。資本提携ではエイプラス・デザインが発行済み株式の全てを白水社へ売却、白水社のグループ会社になった。佐藤氏は「2社の経営規模を比較すれば当然のこと」だと経緯を説明。エイプラス・デザインが白水社のグループに入ることで「多くのメリットが得られる。互いにパートナーとしてやっていける」と語る。

水戸市を拠点に駅ビルや病院建築、保健福祉施設などの設計を手掛けてきたエイプラス・デザイン。建築設計以外にも、水戸藩開藩四百年記念事業として制作された映画「桜田門外ノ変」（10年、佐藤純彌監督）のオープンセットを市内の千波湖畔に誘致。撮影終了後も一定期間観光資源として活用するなど、にぎわい創出のプロデュースにも関わっている。

「地方都市で仕事をしていくには限界もある。大きな課題は人材調達で、これは東京圏にはかなわない。白水社と仕事を共有することで、人材だけでなくモチベーションの向上も図れる」と佐藤氏。デザインのプロフェッショナルと仕事を通じて人材を融通し合うことが、企業経営の良策ではないかと考えた。

白水社は70年にわたって商空間や展示空間他、あらゆる空間のプロデュースに携わってきた。建築設計事務所と提携した理由を、山口氏は「洗練された1級建築士の技術そのもの」だと答える。

「当社にも建築士は在籍しているが、空間デザインに絞った仕事をしてきた。建築そのものの図面を引かせると、法律面でも構造面でも建築設計事務所の建築士には及ばない」と話す。

「これから空間デザインを建物丸ごとこなせる成長が必要ではないか」と考えていたところ、佐藤氏から提携の打診があったという。

■■■

提携の合意から約3年。山口、佐藤両氏は両社の基本的な業務スタイルをすり合わせるには、ある程度の時間が必要だったと異口同音に話す。

互いに認識している設計コストには大きな開きがあったという。空間デザインは目を引き、見せるという性格からコストをかけるが、建築設計はクライアントの側に立ちコストを縮減しながら良いものを作る。この点をすり合わせ、業務の方向性を見いだすのに時間が必要だった。

時間と手間をかけ意思統一を図ったことで「HOSPITALITY DESIGN OFFICE」は万全の体制で業務を始動することができた。新しい部門が手掛ける建築はたたずまいから内部動線まで、専門的な知識や豊富な経験に基づいた作品として世に送り出される。白水社は店舗に限らず幅広い分野の空間デザインに進出でき、エイプラス・デザインも全国展開の糸口をつかむきっかけができる。

空間デザインと建築設計コラボ シナジー発揮し質の高いものづくり

「提携を軌道に乗せるまで3年を要した。ICT（情報通信技術）や人工知能（AI）によって商業空間も変革しつつある。基盤を整えこれから3年で成果を上げ、記憶にも記録にも残る建築と空間を提供したい」と山口氏。佐藤氏は「当面、私がマネジャーを務める。白水社から2人、当社から3人が関わり、プロデューサーとアートディレクター、デザイナーを担当する。提携のシナジー（相乗効果）をフルに発揮し、質の高いものづくりを展開していく」と語る。

■■■

建築と空間デザインの関係はこれまで、緊密なようで一定程度距離感のある存在だったと山口、佐藤両氏は話す。白水社とエイプラス・デザインが展開する「ありそうで無かった」ビジネスモデルがどのような成果を生み出すのか、今後が注目される。

佐藤氏

山口氏

Hakusuisha group
HOSPITALITY
DESIGN OFFICE
Hakusuisha　APLUS DESIGN Inc.

HOSPITALITY DESIGN OFFICEのロゴとマーク

握手を交わす山口氏と佐藤氏

2020年東京オリンピック・パラリンピックの開催を機に、テレワークを中心とした働き方改革が一段と進みそうだ。開催1年前の実証実験でま、夏季の期間中に20

進めることによって生産性を高めることが企業にとっては理想であるが、目に見える形として現れるまでには時間がかかるし、評価も難しい。だが、時短や時差出勤、在宅勤

能などの在り方がこれまでと違ったものになる。都心居住や職住近接の概念も多様化する。

現在のオフィスビル市場が活況を呈しているのは各企業がフリーアドレ

ィスが企業を成長させるための投資に変わったのである。

シェアオフィスはベンチャーやスタートアップの需要だけではなく、外資系企業の出先や日系企

クスなどの新しい技術だ。特にペーパーレス化とウェブ会議のシステムはテレワークには必須であり、AIやロボティクスの技術は仕事そのものを変えてしまうインパク

適に移動するためのモビリティーシステムを提供する事業者、さらに多様な働き方を支え、新しい働き方を可能にするテクノロジー企業など、働き方改革は多種多様な関係

茨城県境町に建築家の隈研吾氏（隈研吾建築都市設計事務所）が手掛ける五つ目の施設が建設される。1937年に建設された木造瓦ぶき平屋の「モンテネグロ会館」を改築するプロジェクト。アルゼンチンとの友好の証でもある同会館を解体し

建設俳

清水建設　選者　池

間宮多佳司氏　逝く
たましひの昇るしづけ

辞世
卒寿過ぎなれど未来へ

旅にしてその土地ごと

風清かゴブランに似し

秋刀魚食ひ腸（はらわた）愛でし

こほろぎの鳴いてしづ

君の居る墓に水注ぐ広

悼　間宮多佳司氏
泰然と樹海に消ゆる秋

長き夜や烏鷺（うろ）を競り合

久久の老の出会ひや菊

屋敷跡鎖されしままや

医者をはしご酒の梯子

「浜なし」の幟はため

記者手帖

喫煙所での交流

「タバコミュニケーション」という言葉を耳にしたことがある。喫煙所でたばこを吸いながら、自席などでしにくい会話をすることで、相手と親密になれるという考え方だそう◆確かに大学時代、愛煙家の同期と特に仲が良かった。喫煙所で会えば、就職活動や卒業論文の進捗（しんちょく）などについて情報交換をしていた。現職も。喫煙所では相手と近い距離感で腹を割って話せる気がする。共通の嗜好（しこう）品を愛する者同士、仲間意識のようなものが生まれるのだろうか◆昨年7月、改正健康増進法が成立したことを受け、東京都内の庁舎では屋内喫煙所が撤去された。取材でよく訪れる庁舎の喫煙所の位置をすべて頭に入れていたが、意味がないものになってしまった◆非喫煙者の受動喫煙を防止すると